



第26号

発行所

〒157 東京都世田谷区成城
1-13-1

武蔵工業大学付属中・高等学校内

電話 03-3416-4161

発行責任者 村上 義雄

編集責任者 清水 茂

二十年を迎える同窓会

理事長

村上 義雄 (二期生)



季節が良くなってきた。同窓会の皆様、各分野に互にご活躍・ご健闘、ご同慶の至りです。本年は戦後五十年を迎え、年初より震災・サリン等々生活を脅か

す事件等が立て続けに到来し、永い不況感も手伝って毎日焦躁感が漂っておりますが、その分季節だけは本年、近年に於てはめずらしい程に「春・夏・秋」とめり張りをつけて到来してくれていることは甚だ印象的である。日本経済は不動産不況・円高・価格破壊・産業構造の変換等々、過去の歴史に類を見ない程の変革を迫られている。会員の皆様方の中にもこの影響

— 20周年記念 —

同窓会開催迫る!!

日時 平成7年11月10日(金)
午後7時00分より

場所 東急ゴールデンホール
(渋谷東急文化会館8F)

会費 3,000円
(懇親会パーティ代・当日受付にて)

同期生・クラブ活動・同好会等の昔懐かしい仲間同士、お互いに連絡を取られ『出会いの場』として是非、ご活用下さい。当日、同窓会名簿第3号(平成6年版)を若干用意させていただきます。(価格¥2,800/冊) この機会に是非お求めを。

を多かれ少なかれ受けておられる方もいらっしゃるご推察申し上げる。さて、同窓会は本年、再建後二十年(同窓生1,000名超)を迎えることができ、これも一重に会員諸兄のご支援、ご協力の賜ものであると考えております。

この二十年というものの同窓会の運営には、総体的に「右肩上り」ではありましたが、その間、紆余曲折・試行錯誤の繰り返しもあつた。近年にきて学校との連携並びに歴代校長先生方のご理解、ご協力、ご鞭撻も得られ、更に同窓生諸兄



にも関心を持っていただくことができつつあることで、我々理事会メンバーも従来にも増して人材が整いつつあり、お互い「母校を想う心」ひとつに理事会ではストリートに意見を交換しあっている。

また、二十年を迎えることを記念するにあたる一環とし、本年の秋の「柏苑祭」十月七日(出)・八日(日)には学校にご理解をいただき、増・改築された学舎にて若かりし頃の資料を素に、思い出話に、情報交換に、更に同窓会を理解していただくべく展示部門スペースも用意させて頂いた。懐しい先生方にお会いできることと思う。

本会を更に着実に発展させるべく皆様が同窓生の輪を拡げるとともに、これら活動に是非ともご協力、ご理解、ご参加の程お願いいたします次第である。理事会としても積極的に取り組んでいきたいと考えている。

《公示》同窓会総会開催について

今回の総会が記念すべき第20回総会となります。同窓会として結成から10年間の創成期、10年目以降の成長期を踏まえてこれからの発展期に向かって進んで行く所存です。

本年度は母校の柏苑祭に同窓会として独自に参加するなど活動の幅も広げて参りました。今後とも『会員諸氏に親しまれる同窓会』を中心テーマとし、これからも種々の企画を立案、実行してまいります。

この度の会がそれらの出発点となります。会員諸氏は万障繰り合わせのうえ出席されるよう要請致します。

同窓会理事長 村上 義雄

記

- 1 日 時 平成7年11月10日(金) 午後6時30分より午後7時まで
 - 2 場 所 東急ゴールデンホール(渋谷東急文化会館内)
 - 3 議 題
 - 第一号議案 平成6年度(平成6年10月1日より平成7年9月30日まで)活動報告
 - 第二号議案 平成6年度 会計報告、会計監査報告
 - 第三号議案 平成7年度(平成7年10月1日より平成8年9月30日まで)活動計画
 - 第四号議案 平成7年度 予算案
 - 第五号議案 その他
- 以上

懇親会開催について

記

- 1 日時・場所 総会終了後、同一場所
- 2 会 費 3,000円(飲み放題)



週末の夜に先生方、先輩、後輩と気楽にグラスを傾けてみるのはいかがでしょうか。会場のスペースも例年の2倍に拡大しております。本年度は14期生(昭和42年3月卒業)の同期会も併せて開催されます。

昭和三十九年に現武蔵工大（尾山台）キャンパスから成城へ中学・高等学校が新築移転し、約三十年間の歳月を経て部分的に老朽化した校舎の増・改築工事が、昨年八月より一



ラースクビルにエ かの学教

校舎の増・改築工事竣工！

部解体を始めてから、めでたく本年の三月末に竣工の運びとなりました。新校舎は近年の教育課程の改革に伴い、コ

ンピュータ教育ルーム、また、選択授業の増加、習熟度別授業等多様化に対応するため数学研究室・英語研究室・講師控室などが増設されています。増築部分のみで五八八坪となっています。同窓会より記念に寄贈いたしました「柏」の若木は新しい校舎のエントランスに植えられ生徒さん達とともに今後、歴史を刻み続けてゆくことでしょう。

同窓生の皆さん



第37回『柏苑祭』当日に
新校舎に集まりませんか!!

同窓会として本年の第37回柏苑祭に参加することとなりました。同窓会20年の歴史を辿る資料の展示等、また懐しい先生とお会いできるかも知れません。

日時 平成7年10月7日(土)・8日(日)

場所 武蔵工業大学付属中・高等学校 増・改築新校舎内 121教室

●授業/平成7年10月8日(日)

一時限目 13時00分～(教師・福本先生)

二時限目 15時00分～(教師・龍淵先生)

(8日当日は夕方、昔の生徒達による課外授業を考えております。会費は各自負担お願いします。同級生・懐かしい親友をお誘い合わせのうえ、是非ともご参加下さい。)

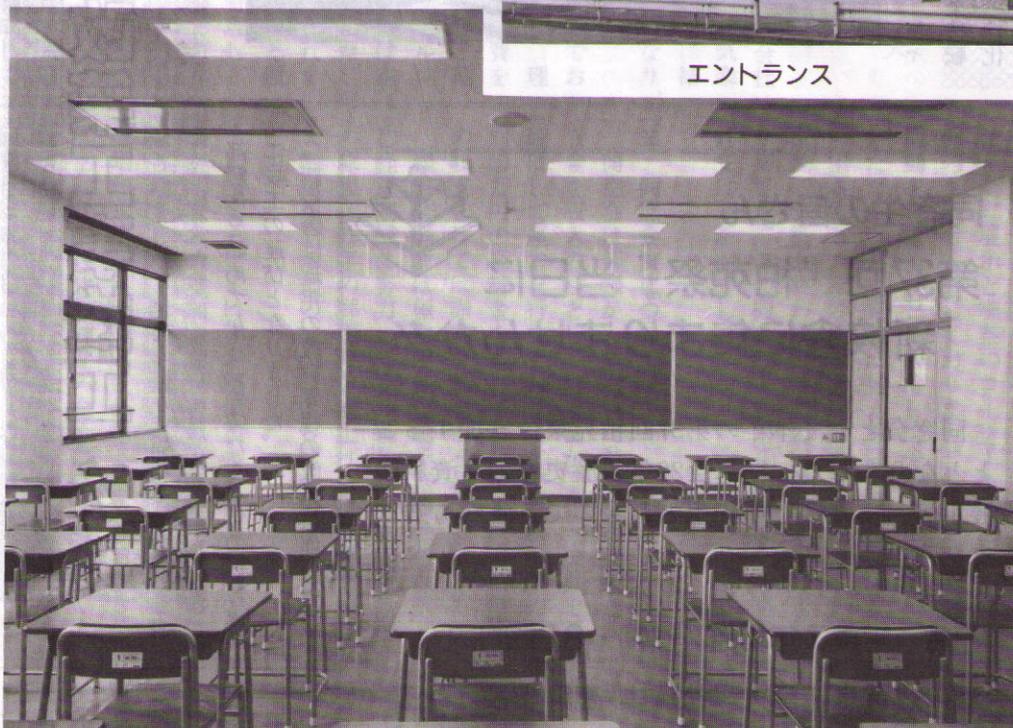
同窓会 事務局



ロビー



エントランス



教室



校長室



附属中・高校と成城町



数学科 井口 福太郎

||今号では昨年十一月に停年を前に母校から武蔵工大に異動され、教職課程の教鞭を取られることになりました井口福太郎先生に附属中・高校在職中の思い出を語っていただきます。

先生は昭和二十九年に母校での教鞭を取り始め、約四十年間、数学を担当され、白髪混りのお顔に懐しい授業を思い起す同窓生もいらっしゃることでしょう||



一附属中・高校が尾山台から成城町に移転してきましたのは昭和三十一年四月でした。それから現在まで三十一年六ヶ月、したがって私の中高校勤務年数の大半を成城で過ごしたことになります。尾山台の町は閑静な住宅地です。

だが成城の町も美しい住宅地です。ともに教育環境としては抜群でこの町の雰囲気は、中・高校に通うすべての人々に良い影響を与えているものと信じております。最近成城町もビルが建ち始め、数年前までの雰囲気とは多少変わってまいりましたが、それでも美しい町で特に住宅地の中を通っている通称『裏道』の通学路は春には街路樹のサクラのトンネル、道の両側の住宅地の道路側に植えられた大ムラサキ、ボタンなどが美しい花を咲かせ通行人を楽しませてくれます。私は昨年十一月大学の教職課

程への異動が決まりましたからなぜかゆっくり歩くようになっていました。今考えますと無意識のうちはこの雰囲気を感じていたのだと思います。

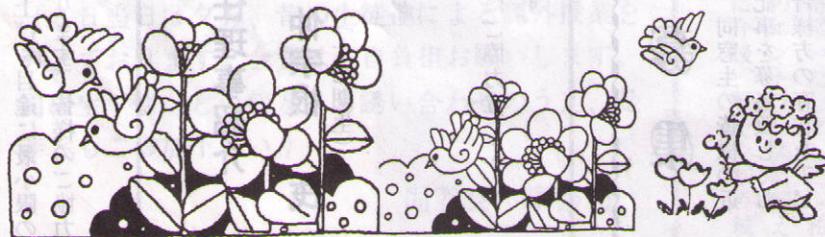
さて、附属中・高校に四十年近くこ厄介になりますと、通学路を歩いて、校舎を見て、教室に入って、グラウンドに立って、プールを見て、体育館に入って、目を閉じますと、その場所でのいろいろな出来事が数多く思い出されます。

特に印象に残る思い出は昭和四十年代の高校学園紛争に巻き込まれ、教員も生徒も目に見えない力に振り廻されたことです。

校舎内外に貼られた闘争内容のかかれたポスター、立て看板など当時の情景は忘れることが出来ません。学校はその時代の世相の影響を受け、大なり小なり何らかの形で現われるのですが、武蔵中・高校はあまり大きな影響は受けないような気がいたします。これは、教職員があなたかく誠意をもって生徒に接しているためと思っております。

附属中・高校の教職員皆様の教

育に対する情熱を努力を、そして、この美しい閑静な住宅地成城町の雰囲気は、附属中・高校を益々発展させるものと信じております。



理事会報告

事務局長 阿部 俊夫

一 懇親会について

昨年の懇親会では会費を二〇〇〇円とし、会社帰りに赤提灯に寄る気分で同窓生の皆様に気楽に参加していただきたいと企画致しました。結果として本会の結成総会以来の参加人数となり、収支もほぼ予定どおりの結果となりました。

本年度は昨年に倍する参加人数を見込んでおり赤字分も増加することが予定されますが、理事会としては「朝令暮改のように一年で会費を変更するのではなくしばらく継続すること。運営については最大限の努力をし(但し、アルコールは不足しないこと)結果として不足分は予算からの援助で賄うこと」と決定しました。

今回は十四期生の同期会も併せて開催されます。初めての経験ですが十四期生の代表者と理事が話し合い、全体の運営は理事会が管理し、同期会の運営にも配慮することで合意しております。

二 柏苑祭への参加について

本年度の母校の柏苑祭は十月七・八日に開催されます。理事会としては小委員会を結成して

参加の内容を検討し、独自参加の方向を決定しました。展示と喫茶のコーナーを開設し、その他の企画も検討しております。目的は同窓会の活動を在校生やPTAそして先生方に理解していただくこと、見学に見える同窓生の交流の場とすること。その他企画が計画されております。母校の改築も終わり、校門の印象が大幅に変わりました。この機会に久しぶりに母校を訪問されてはいかがでしょうか。

三 同窓会費について

同窓会は皆様から拠出いただいた年会費と入会金を収入の柱とし、理事会が予算、決算を明確にして運営を行っております。現状では約三八〇万円の繰越金を有しておりますが、単年度の収支としては赤字を計上する状況です。

理事会経費は極力圧縮し総予算の二%以下とし経費削減に努力して参りましたが単年度赤字の原因は昨年の郵便料金値上げによる通信費の大幅増額や活動の拡大による経費の増加があります。

理事会としては赤字解消策として「活動の縮小か、収入の増加(会費の値上げ)」の対応に迫られました。種々討議の結果、①現在の会費は昭和六十一年に決定され据え置かれている。

②活動が活性化し種々の企画に参加いただく人数が増加している。③特に機関紙「柏」の年二回発行は継続したい、等々の意見が圧倒的でした。

た。この結果、会員の皆様および在校生の理解を得るため二年後の値上げを目的に最小限の値上げ幅を検討してまいります。皆様のご協力をお願い致します。

平成六年度

同窓会新任理事紹介



仲宗根 茂
(十七期生)

今後の同窓会活動にご協力宜しくお願い申し上げます。

原稿募集

編集委員会では、同窓生の皆様の近況・随筆等幅広く記事を募集致しております。卒業生の皆様方の存在をアピールする忌憚のない投稿をお待ち致しております。



懇親ゴルフ大会(第四回)

武蔵クラシック

開催日 平成七年十月十五日(日曜日)
場所 British Garden Club
(山梨県都留市)

今回、母校より門教頭先生はじめ三、四名の先生方が参加される予定です。今後も継続されてゆきますので是非、皆様方の奮ってのご参加をお待ち申し上げます。
へ問い合わせ先

実行委員長 梅田博夫(十六期生)

☎〇三三三三九二一六二二〇



昔、人間はお互いの交渉により価値感を決定し、物々交換を行なった。交渉は手間取ったろう。

その後、石や貝など、希少価値のある自然界の鉱物等と物とを交換することになり、更に生産品或はサービスの対価を支払うようになった。その後、便宜上、貨幣を考案するに至り「貨幣経済」突入となる。我が国に於て貿易による開かれた経済の変遷を辿ってみる。一九七一年(明治四年)に、新貨条令で円が誕生したときは、一円は一ドルとほぼ同じ価値。一八九七年

昔・人間は物々交換だった

貨幣法制定により、
日本が金七五〇ミ
リグラムを一円と

する金本位制に移行した当時は一ドル約二円。

一九三〇年(昭和五年)に日本は金の輸出

解禁に踏み切ったが、世界恐慌で円の価値は

下落を続けた。日米開戦直前は約四円だった。

終戦後、五二年に加盟した国際通貨基金(IMF)の取り決めて、各国通貨の為替相場

は一定量の金またはそれと同等の価値をもつ

ドルに対して固定された。ドルは金一オンス

(約28・35g) 三五ドルの交換比率で金に

結びつけられ、ドル以外の各国通貨は一定の

交換比率でドルに結びつけられた。日本円は

一ドル三六〇円と決められた。

一九六〇年代から日本は、貿易収支の黒字が定着し、高度経済成長が始まる。弱かった円は次第に強い通貨に変わっていった。

基軸通貨として「ドル」が使われたのは、戦後。金との交換を保証できるだけの金を保有していたのは米国だけだったこと。米国が強い経済力を持ち、ほとんどの国が国際取引の

決済にドルを使用していた事実に基づく。七一年米国は金の減少とドル流出の増大を防ぐため金とドルとの交換を停止し、ドル防

衛策をとった。「ニクソン・ショック」という。円は七三年から一ドル三

六〇円の固定相場制から変動為替相場制に移行した。

主要国のほとんどが変動相場制になったこととで各国の通貨は、経済成長率やインフレ率

など、各国の経済情勢に応じて価値が変動するようになった。外国為替市場では、為替銀行の間で外国為替の売買が行われ、為替レ

トが決まる。参考「中学生ウィークリー(朝日)」

全ての価値判断が貨幣というものに頼ると

いうことの危険性が指摘されている昨今である。

清水

懐かしい顔

毎号、突然の依頼に心良く応じていただき、感謝致しております。今後とも宜しくご協力お願い申し上げます。①卒業年度 ②最終学年時の担任 ③クラブ活動です。

高梨重雄

- ①三期生(昭和四十九年三月卒)
- ②三宅重信先生
- ③写真部

大学を卒業後、設計事務所勤務し二年前に独立しました。「洪洋社」という設計事務所です。この「洪洋社」は祖父が建築関係の出版者かつて行っており、その名前をもらいました。戦災により祖父の出版物は我が家にも一冊もなく、現存しているのは国会図書館にあるものだけのようです。現在の仕事は個人住宅から集合住宅また商業店舗と建築設計全般にわたっています。自分としては建築設計士として「遊べる」要素のある商業店舗の設計をしてみたいと思っています。

武蔵高の思い出のひとつは柴田先生の数学の授業です。英語による方程式の読み方や解法など、今でも昨日のことのように思い出されます。また、卒業アルバム委員会でアルバム編集を行ったことも印象に残っています。

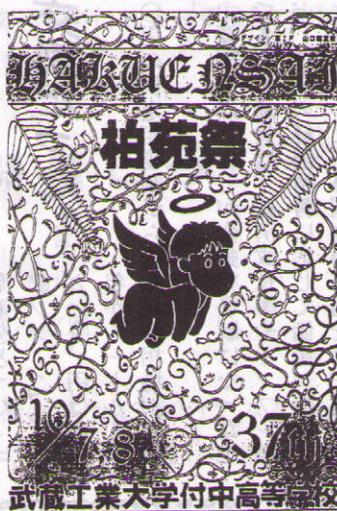
お慶び

昭和四十八年三月まで母校で国語科の教員でおられた須藤豊彦(旧姓金森)先生は、現在国学院大学の教授として活躍されており、平成六年に「文学博士」を授与されました。

編集後記

「サムシング・ニュー(何か新しいことを)」が今年のテーマのようだ。我らが母校も今年リニューアルされ生まれ変わった。同窓会も何か新しいことを始めようと思ひ立ち、毎年懸案事項としてあがっていた柏苑祭への参加を決めた。学校入口には同窓会受付を設け、教室もひとつ借りることにした。中では飲み物を振る舞い旧交をあたためるような仕掛けづくりをしてみようと思っている。特別授業として二回、某先生による授業を企画している。何十年ぶりで受けるムサコウの授業、果たしてどんな展開になるのか楽しみだ。我々も年をとったが、先生方も同じくらい年をとっている。ちょうど今年が終戦五十周年で、日米の宿敵が手を取り合って平和

を願っている図と同じような感じになるのだろうか。無論、我々は宿敵ではないと思うが、でも高校生のころは宿敵であったかもしれない。早弁したのを怒られたり、授業をフケタことをとがめられたりもした。年月は往年の宿敵も友情に変えるかもしれない。



十一月一日(金)の同窓会総会に何人集まるかが楽しみだ。昨年は一昨年の倍の同窓生が集まった。同窓生の方々に最も安価にクラス会を開催するノウハウを伝授したい。それは総会の開催される十一月一日の同じ時刻・同じ会場でクラス会を開催することだ。つまり総会をクラス会にしてしまおうのである。そうすれば一度で済むし、費用の負担も軽減される。これが究極の手法だ。何はともあれ皆さんと総会でお会いできることを楽しみにしている。

(神田)